

# 大阪府地域医療再生計画（平成24年度補正予算）（案）の概要

～災害・在宅・医師確保分野の取組により、大阪府の医療提供体制のさらなる強化～《既存計画の取組を拡充・補完し、より実効ある再生計画へ》

## 災害医療 《977,000千円》

- 【課題】
- 災害時に発生する多数傷病者の受入能力が不十分
  - 迅速な判断や対応を可能とする、的確な情報を効率的に収集する仕組みが不十分
  - 関係機関との連携をより実効あるものとするのが急務
  - 災害時の医療活動を支える医薬品の供給体制等の整備が必要

- 【目標】
- 災害時の災害拠点病院・災害医療協力病院における受入体制の充実・確保
  - 情報の収集のための体制及び基盤の整備
  - 関係機関による連携体制の強化
  - 医療救護所での迅速・適切な医療を支える医薬品供給体制の整備

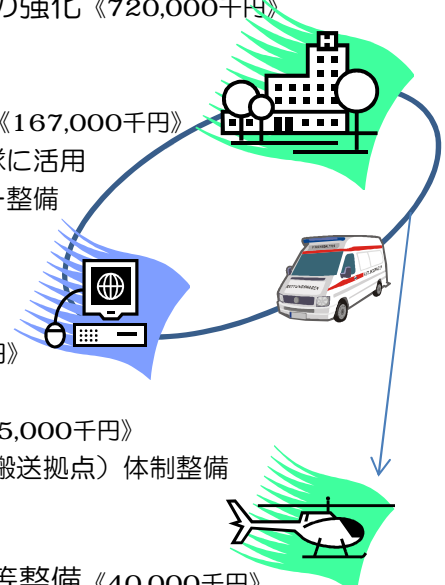
○災害医療機関の受入能力の強化 《720,000千円》  
医療機器、通信機器 整備等

○災害医療情報の基盤整備 《167,000千円》  
災害情報システムをDMAT隊に活用  
災害医療コントロールセンター整備

○関係機関等による  
災害医療訓練  
実施体制の強化 《5,000千円》

○SCU運用体制の整備 《45,000千円》  
府内3空港にSCU(広域医療搬送拠点)体制整備

○災害時の医薬品供給体制等整備 《40,000千円》  
現地での円滑な医療活動を支える、医薬品供給体制の整備 等



●災害医療情報システム(3SPiders)やSCU(八尾空港)などこれまでの先進的な取組みをさらに拡充

●多くの医療機関が集積する大阪府の特性を踏まえ相互の連携により実効性のある災害医療体制

## 在宅医療 《110,000千円》

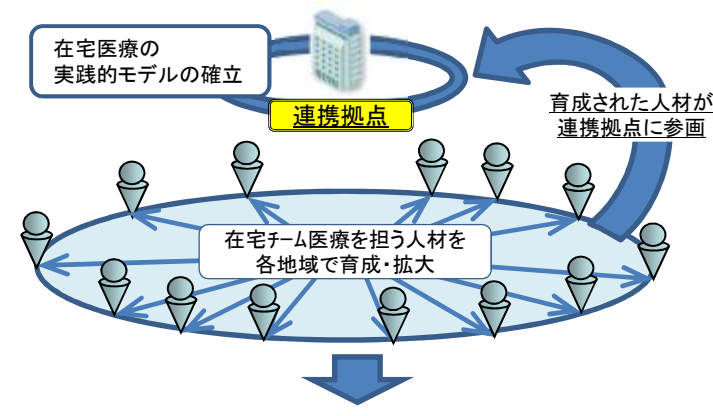
- 【課題】
- 医療と介護の連携が不足
  - 在宅医療を提供する医療従事者の不足

- 【目標】
- 医療と介護が連携した多職種協働による在宅医療の提供体制を構築
  - 府内全市町村で在宅チーム医療の土台となる医療従事者を確保・育成

○地域における在宅医療の連携拠点を整備 《90,000千円》  
在宅医療の実践的モデルを各地域で確立



○多職種協働による在宅チーム医療を担う人材育成 《20,000千円》  
医療と介護が連携し在宅患者を支える「在宅チーム医療」に参画する多職種の人材を育成・拡大



両取組の相互作用により、府内全市町村で患者が安心して在宅医療を受けることができる環境の礎を築く

## 医師確保 《413,000千円》

- 【課題】
- 府域における医療提供体制の充実を図るため、安定的な医師確保が不可欠
  - 医師の地域偏在、診療科偏在の課題があり、泉州医療圏の医師不足は深刻

- 【目標】
- 地域医療に従事する医師のキャリア形成を支援しながら地域間・診療科間のバランスのとれた医師配置を促進
  - 府域全域の医師不足問題の解決に向け、地域医療に従事する医師の確保
  - 医師不足問題が深刻な泉州医療圏において安定的に医師を確保するための環境づくり

【府域全域における医師確保】  
○地域医療支援センターの運営により、医師のキャリア形成を図りつつ、地域に必要な医師の適正配置の推進 《64,200千円》

《人材のバランスのとれた適正配置》

↑相乗効果により効果的な医師確保

○奨学金の貸与により地域医療を支える医師の確保 《58,800千円》

《新規人材の確保》

【泉州医療圏における取組】  
○寄附講座の設置により、大学との連携に基づく地域の中核病院への安定的な医師の確保・養成 《290,000千円》



### 既存の大阪府地域医療再生計画

「三次医療圏計画」平成23年11月策定  
～府域全域において医療提供体制の強化が急務である7分野の取組～ 《2,742,568千円》

- ①救急医療、②周産期医療、③がん対策、④感染症対策、⑤歯科医療、⑥薬務対策、⑦医師確保

計画の一部事業を拡充し  
引き続き取組み

「二次医療圏計画」平成22年1月策定  
～医療機能が相対的に脆弱な医療圏での取組～

- 「泉州医療圏」《2,500,000千円》  
医療機能の再編・連携により安定した医師確保を図り、地域医療水準の向上と持続可能な医療体制の構築
- 「堺市・南河内医療圏」《2,500,000千円》  
地域の救急・小児周産期医療機能等の向上

### 基金活用の内訳

災害医療：977,000千円

在宅医療：110,000千円

医師確保：413,000千円

合計 1,500,000千円